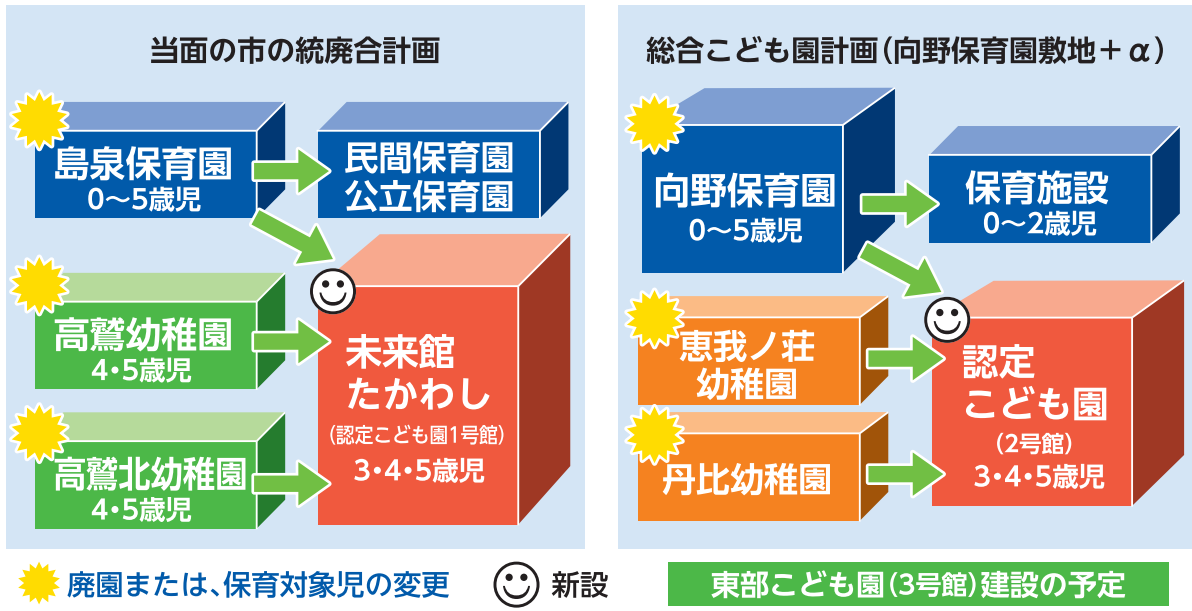


# 認定こども園ありきで 島泉保育園と高鷲北幼稚園が 廃園に

# 市民の声を聞く市政を！

# 日本共産党

保護者や地域の声も聞かず、話し合いもなく、一方的にすすめる市のやり方に批判の声!!



10月13日、議員全員協議会で、施設の老朽化や幼稚園児の減少、幼児教育の充実を理由に、市長から突然「来年度から島泉保育園、高鷲北幼稚園の新規募集を停止して、廃園する。保育園児は他の保育園に受け皿を作り、高鷲北幼稚園は認定こども園に統合する」と説明がありました。(上図)

その後、保護者や職員への説明会が開かれましたが、市の一方的な進め方に、大きな怒りが広がっています。

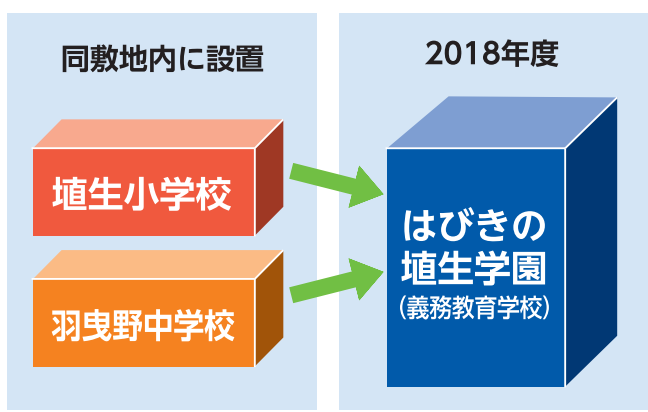
羽曳野市では、今年9月時点でも118人（ほとんどが0～2歳児）が入園できず、「認定こども園」には0～2歳児の受け皿はなく、待機児解消にはなりません。

また高鷲北幼稚園は施設も新しく、他園に比べて子ども数も多く、廃園すべきではありません。さらに向野保育園と丹比幼稚園、恵我ノ荘幼稚園を統合する計画も示されています。

「認定こども園」ありきで、保護者の声も地域の声も、関係者の声も聞かずに、話し合いもなく、一方的にすすめる羽曳野市に、日本共産党は「今回の募集停止は見合わせ、保護者や関係者と話し合い、理解と合意をしながら進めるべき」と、市長に申し入れました。

市は、保護者や市民の声に押され、新規募集停止を一定見直しましたが、廃園することに変わりありません。

## 義務教育学校ではなく 35人学級の実現、教育環境の改善こそ大切



羽曳野市は、埴生小学校と羽曳野中学校を、小学1年生から中学3年生までの9カ年を一つの教育課程とする義務教育学校「市立はびきの埴生学園」としました。市は、中学進学への不安感が不登校を急増させる「中1ギャップ」の解消や、4・3・2制など弾力性のあるカリキュラムが組めるなどを導入の理由にしています。しかし、他の学校と教育の内容に違いが出ることや、現在の6年生時の卒業式もなくなり、自覚や誇りも持てなくなるなど、危惧される多くの問題が指摘されています。

義務教育学校ではなく、全学年に35人学級を実現し、教師の多忙化を改善するため教師を増やすなど、教育環境の改善・充実をすすめることを、市は本気で取り組むべきです。

## 公共施設のあり方は 市民の声を聞き 活かしてすすめるべき

国は、人口減少や老朽化・耐震化対策を口実に、公共施設を集約化・複合化していく計画をたてるよう自治体に求めています。

羽曳野市は、幼稚園と保育園の統廃合や幼稚園・小学校・中学校の集約化など、公共施設を地域からなくしていく計画を、市民の声も聞かずに進めています。しかし、公共施設は地域の重要な「まちづくり」の拠点です。公共施設のあり方は市民の声をよく聞いて、それを活かしてすすめるべきです。